

平成28年度 学校関係者評価報告書

大阪市立昭和中学校 学校協議会

1 総括についての評価

「視点ごとに定めた年度目標のうち、いくつかは定めた数値に届かなかったものの、総じて目標は達成できている」という本年度の自己評価結果の総括については妥当である。今後は、総括に挙げている「改善を要することがら」についてしっかり取り組んでもらいたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【視点：学力の向上】

○平成28年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の項目について、「2時間以上」と答える生徒の割合ならびに「1時間以上」と答える生徒の割合を平成27年度の水準（それぞれ69.7%、92.4%）を維持する。
（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）

○平成28年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実」に係る児童アンケート（5月・12月実施）の各項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える生徒の割合を、5月実施分より12月実施分において向上させる。
（カリキュラム改革関連）

○平成28年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成27年度の水準（82%）を維持する。
（カリキュラム改革関連）

○平成28年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を、平成27年度の水準（81%）を維持する。
（カリキュラム改革関連）

自己評価Bは妥当である。

一部の学年の家庭学習時間が他の学年と比較して短いことが気になる。今後、家庭とも連携して改善を目指してもらいたい。

年度目標：【視点：道徳心・社会性の育成】

○平成28年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。
（カリキュラム改革関連）

○平成28年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成27年度末の割合（84%）以上にする。
（カリキュラム改革関連）

○平成28年度末の校内アンケートにおける「学校の決まりや約束を守っている」の項目において「守っている（どちらかといえば、守っている）」と答える生徒の割合を、平成27年度末の割合（86%）以上にする。
（カリキュラム改革関連）

○平成28年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を平成27年度末の割合（76%）以上にする。
（カリキュラム改革関連）

○平成28年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保

護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、平成 27 年度末の割合（86％）の割合を維持する。
（カリキュラム改革関連）

- 平成 28 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成 27 年度末の割合（54％）の割合を維持する。 （カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）
- 平成 28 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、平成 27 年度末の割合（84％）の割合を維持する。
（カリキュラム改革関連）

自己評価 B は妥当である。

- ・「いじめに対する教員の対応」で生徒からの信頼度が昨年度よりもアップしていることは、いじめ事案が増えているからではないことに安心した。
- ・将来の夢や目標を持っている子が少ないのは、中学生時代は漠然とした夢は持っていたても、具体的なものまでは考えられないからだろう。

年度目標：【視点：健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が本市平均ならびに全国平均を上回るようにする。
（カリキュラム改革関連）
- 平成 28 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を 90％以上にする。
（カリキュラム改革関連）
- 平成 28 年度末における給食の平均残食率を 7％未満にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 28 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、100％にする。
（ガバナンス改革関連）

自己評価 B は妥当である。

- ・体力は小さい時からの積み重ねが大事だ。小さい時にもっと歩かせたりして身につくものである。ので、家庭との連携で伸ばして欲しい。
- ・昭和中学校は小規模校で、母数が小さいから、際立ってよくないデータがあれば平均が変わるので、あまり気にすることはないのではないか。
- ・耐寒の登山などをしたらいいのではないかな。

年度目標：【視点 教職員の ICT 活用能力の向上】

- 平成 28 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中に ICT を活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100％にする。
（マネジメント改革関連）
- 平成 28 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒に ICT 活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100％にする。
（マネジメント改革関連）
- 平成 28 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務に ICT を活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を 100％にする。
（マネジメント改革関連）

自己評価 B は厳しすぎる。評価 A が妥当である。

- ・他と比較して、とても目標設定が高いのではないかな。
- ・J A E T 学校情報化認定委員会より「学校情報化優良校」に認定されたことは大いに評価できる。

3 今後の学校運営についての意見

- ・昭和中学校には、他から見ればできているのに自信のないという子が少なくないと思う。ぜひとも、そのような子に自信をつけさせて、能力を引き出してあげるよう、頑張ってもらいたい。

A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	<p>2年生において、友人間の暴力行為があり、加害側の保護者に来校していただき、家庭においても、学校と協力して指導していただくよう対処した。</p> <p>今後、暴力行為そのものが起こらないよう、他者を大切にする気持ちを、道徳や人権学習を通して育てなければならない。</p>
②いじめの状況等	<p>大きないじめ事案の訴えはなかったが、嫌がらせは見受けられた。これからもタイミングよく効果的な対応を心掛けていきたい。また、いじめ事案に対する校内研修を充実させ、学校総体としての対応の体制を確立させたい。</p>
③小・中学校における不登校の状況等	<p>1、2年の不登校生徒各1名が完全に改善し、登校できるようになったが、未だに3年で1名、2年で1名が、長期欠席が改善されなかった。不登校になりそうな予兆をしっかりと把握し、先手を打つ関わりを心掛けたい。不登校生徒については、関係諸機関とも連携をとりながら、多方面からの関わりを行うことで改善策を見つけていきたい。</p>
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	